

対スワジランド王国 国別援助方針

2014年4月

1. 援助の意義

スワジランドは、王政を維持するアフリカでは数少ない国家の一つである。また、近年南部アフリカ開発共同体（SADC : South African Development Community）や東南部アフリカ市場共同体（COMESA : Common Market for Eastern and Southern Africa）を通じて南部アフリカ地域全体にかかわる課題への貢献も行っている。国土の約80%が農地であり、人口の70%以上が農業に従事している。主な産業は、農林業（砂糖、柑橘類、パイナップル、綿花、木材）、鉱業（石炭）、繊維産業であり、これら一次産品を加工する製造業がGDPの約32%を占めている。同国は、一人当たりGNI2,860米ドル¹の中等所得国に分類されるものの、国家歳入の約3分の2は南部アフリカ関税同盟（SACU : Southern Africa Custom Union）の共通基金に依存しており、近年、南アフリカ共和国の域内関税収入が減少したために同国の歳入も大幅に減少し、財政が逼迫した状況が続いている。さらに、高い失業率（約29%）²、高いHIV/エイズ罹患率（15歳から49歳の人口の約26%）³、近年断続的に発生している干ばつの影響による食料不足など多くの脆弱性を抱えている。また、同国の貧困率（総人口のうち、国内貧困ラインを下回る人口の割合）は63%⁴に達しており、約3分の2の国民が貧困層となっている。我が国がODAによる支援を行うことは、ODA大綱の基本方針／重点課題に掲げられている人間の安全保障、貧困削減、持続的成長の観点から重要である。

2. 援助の基本方針（大目標）：貧困削減に向けた開発への支援

スワジランドは、2006年に国家開発計画として「貧困削減戦略及び行動計画」を策定し、主な開発優先課題として貧困層の生活改善、収入の増加、格差の是正を掲げ、貧困削減に向けて努力している。我が国は、かかる取組を踏まえ、特に社会的弱者の生活水準の向上を念頭に、貧困削減や社会の安定に資する支援を中心に実施していく。

3. 重点分野（中目標）：人材育成と社会的弱者の基礎生活の向上

人材育成、雇用促進や国の経済発展にも寄与する理数科教育を支援していく。また、社会的弱者の生活水準と密接に関わる、基礎衛生分野、農業、気候変動対策等を支援していく。

（了）

別紙： 事業展開計画

¹ 出典：2012年世界銀行

² 出典：2011年スワジランド労働省

³ 出典：2009年UNICEF

⁴ 出典：2010年世界銀行